

認識・問題把握期（小5・小6・中1）編

■ 認識・問題把握期の学習のねらいと学習活動例一覧

段階	学年	幼児・児童・生徒が11年間で身に付ける資質・能力・態度			
		環境についての感受性 共生や思いやりの心	環境に対する見方・考え方		環境に働きかける 実践力
			環境に対する 思考・判断・表現	問題解決に 必要な技能	
認識・問題把握期	中1 小6 小5	○環境に関わる事象に、直面させるとともに、因果関係や相互関係の把握、課題解決能力を育成する。			
		<ul style="list-style-type: none"> ●身近な地域や目下の社会が抱える環境問題について、自分の生活と関連付けて捉え、興味・関心をもって関わることができる。 ●自分も自然界の一員であることを意識し、自分を取り巻く環境を大切にしようとする心をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ●身近な地域や日本の自然環境、社会環境の中から自ら課題を見付けることができる。 ●自ら見付けた課題と世界の様々な地域の環境問題を関連付けて考えることができる。 ●集めた情報をもとに、グラフや図表などを用い、課題や自分の考えを筋道を立て、発表などを通して表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●目的を明確にし、取材活動やインターネットなどから、情報を収集・選択することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●日本や世界の自然環境や社会環境をめぐる様々な問題について、人々の生活との関わりをもとに、その原因・実態を理解することができる。 ●人間の環境に対する責任や使命を自覚し、身近な場面にも自分たちができる環境改善や保全に向けた取組があることに気付き、理解を深めることができる。

●活動事例

No.	1	活動名	植物と森林のはたらきについて考えよう		活動に要する時間	15時間程度
環境をとらえる視点		循環	多様性	生態系	共生	有限性 保全
概要	FEEL		THINK		ACTION	
	<ul style="list-style-type: none"> ・植物や森林の働きとは何だろう。 ・植物や森林を取り巻く問題について知ろう。 		<ul style="list-style-type: none"> ・学校や地域の植物や森林の様子について調べよう。 ・植物や森林が直面している環境問題について調べよう。 		<ul style="list-style-type: none"> ・学習を通して分かったことをこれからの生活に生かそう。 	
No.	2	活動名	食べ物とわたしたちの暮らしについて考えよう		活動に要する時間	15時間程度
環境をとらえる視点		循環	多様性	生態系	共生	有限性 保全
概要	FEEL		THINK		ACTION	
	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な食材の生産地を調べよう。 ・食糧不足に悩む国の暮らしを知ろう。 ・食べ物を取り巻く問題について知ろう。 		<ul style="list-style-type: none"> ・小麦と食べ物を取り巻く環境について調べよう。 ・エコクッキングにチャレンジしよう。 		<ul style="list-style-type: none"> ・学習を通して分かったことをこれからの生活に生かそう。 	
No.	3	活動名	エネルギーとわたしたちの暮らしについて考えよう		活動に要する時間	15時間程度
環境をとらえる視点		循環	多様性	生態系	共生	有限性 保全
概要	FEEL		THINK		ACTION	
	<ul style="list-style-type: none"> ・電気について知ろう。 ・電気と環境負荷について知ろう。 		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の温暖化防止の取組について調べよう。 		<ul style="list-style-type: none"> ・学習を通して分かったことをこれからの生活に生かそう。 	
No.	4	活動名	地域の産業とわたしたちの暮らしについて考えよう		活動に要する時間	15時間程度
環境をとらえる視点		循環	多様性	生態系	共生	有限性 保全
概要	FEEL		THINK		ACTION	
	<ul style="list-style-type: none"> ・地球年表を作ろう。 		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の産業と環境との関わりについて調べよう。 		<ul style="list-style-type: none"> ・学習を通して分かったことをこれからの生活に生かそう。 	
No.	5	活動名	日本の国立公園や世界遺産について調べよう		活動に要する時間	15時間程度
環境をとらえる視点		循環	多様性	生態系	共生	有限性 保全
概要	FEEL		THINK		ACTION	
	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の素晴らしい自然や文化遺産について知ろう。 ・ユネスコの活動について調べよう。 		<ul style="list-style-type: none"> ・日本の国立公園や世界遺産について調べよう。 ・地域遺産を認定しよう。 		<ul style="list-style-type: none"> ・学習を通して分かったことをこれからの生活に生かそう。 	
No.	6	活動名	私の学校のエコ宣言		活動に要する時間	15時間程度
環境をとらえる視点		循環	多様性	生態系	共生	有限性 保全
概要	FEEL		THINK		ACTION	
	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の環境家計簿を付けよう。 		<ul style="list-style-type: none"> ・Kids ISOに取り組もう。 		<ul style="list-style-type: none"> ・学習を通して分かったことを次年度の学校版ISOに引き継ごう。 	

1 「植物と森林のはたらきについて考えよう」

1 単元の目標

- (1) 植物や森林の働きについて調べる活動を通して、植物や森林が直面する環境問題を身近なものとして捉えることができるようにする。
- (2) 身近な自然環境や社会環境から見いだした問題について、共生や思いやりの視点から解決に向けての具体的手だてをまとめ、自らの暮らし方を改善していく実践行動につなげることができるようにする。

2 評価の観点

評価の観点		内 容
環境についての感受性 共生や思いやりの心		<ul style="list-style-type: none"> 植物や森林の働きを自分の生活と関連付けて捉え、森林を取り巻く環境問題を解決するための活動に興味・関心をもって関わることができる。 人の生活と植物とが深く関わり合っていることに気付き、共生の心をもって、自らの生活行動を見つめ直すことができる。
環境に対する 見方・考え方	環境に対する 思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 森林を取り巻く問題を身近な地域や自分の生活の中から見付け出し、その解決方法を具体的に考えることができる。 身近な環境と東京都や日本、世界の環境との関わりに気付き、自分の生活と環境との関連について考えることができる。 植物や森林の働きについて、インターネットや実験、調査などをもとに図表等を用いてまとめ、筋道立てて自分の意見を発表できる。
	問題解決に必要な 技能	<ul style="list-style-type: none"> 植物や森林の働きについてインターネットや実験、調査などを活用して、自ら情報を収集・選択することができる。
	環境に対する 知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> 植物や森林を守るための身近な取組について知り、自分たちにもできることがあることについて理解する。 植物や森林をめぐる様々な問題について、その原因や実態を理解できる。
環境に働きかける実践力		<ul style="list-style-type: none"> 植物や森林を守るための身近な取組について知り、自分の生活の中で実践できる。

3 指導計画【全15時間程度】

時	主な学習活動	◇教師の支援 ◆主な評価
F E E L	○ エコスタイルチェックで自分の生活を見つめ直そう。	◇ 他者との競争でなく、自らの生活を素直に見つめさせる。
	○ 植物や森林の働きとは何だろう。 ・ 光合成 ・ 食糧生産 ① ・ 生き物たちのすみか ② ・ 保水、水質浄化 ③ ・ 土砂の流出防止 ・ 紙、木材 等	◇ 植物や森林の働きについて、概要資料を提示する。 ◇ 視聴覚資料を活用し、植物や森林の働き、森林が直面する環境問題を実感的に捉えられるようにする。
	○ 植物や森林を取り巻く問題について知ろう。 ・ 焼畑農業、家畜の放牧、木材利用、酸性雨による被害 等	◆【環境についての感受性】植物や森林のもたらす恩恵について知り、自分の生活がそれらに影響を及ぼす可能性のあることを率直に受け止めることができる。 ◆【共生や思いやりの心】植物や森林とともに生活していく大切さが分かる。

	時	主な学習活動	◇教師の支援 ◆主な評価			
T H I N K	④	<p>○ 学校や地域の植物や森林の様子について調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校や地域の植物や森林が生活にもたらす豊かさ 身近な植物が受けている影響 「自分の木」を決めて、葉、花、幹の様子、実香り、関わりをもつ生き物、周辺の様子について観察する。(季節による継続観察可) 「自分の木マップ」の作成 <p>○ 植物や森林が直面している環境問題について調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 焼畑農業、家畜の放牧、木材利用、酸性雨による被害等の中から、課題を選択し、森林保全の取組とともに調べる。 <p>調べたことをレポートや新聞、プレゼンテーションソフトなどを使って発表する。</p>	<p>◇ 植物や森林がもたらす恩恵について自らの生活と関連させて捉えさせる。</p> <p>◇ 自分なりの思いや願いを明らかにさせる。</p> <p>◇ 活動計画を立てさせる。</p> <p>◇ 情報収集、実験や観察の方法について例示する。</p> <p>◇ 学年、校種を越えて継続観察させる際には、発達段階に応じた観察の視点を明確にする。</p> <p>◇ 関係機関との連携を図る。</p> <p>◆【環境に対する見方・考え方】</p> <p>〈思考・判断〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 理由を明確にして学習課題を見付けることができる。 植物や森林に起こる変化とその要因について考えることができる。 <p>〈技能・表現〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 目的を明確にして、課題解決に必要な情報を得ることができる。 得られた情報を図や表などに加工し、自らの考えを表現できる。 <p>〈知識・理解〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分にもできる植物や森林を守るための取組があることを知る。 植物や森林を取り巻く問題の実態と原因を理解する。 			
	⑤					
	⑥					
	⑦					
	⑧					
	⑨					
	⑩					
	⑪					
	⑫					
	⑬					
	A C T I O N			⑭	<p>○ 学習を通して分かったことをこれからの生活に生かそう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 植物や森林を守り育てていくために自分で取り組めることを考え、行動として表す。 	<p>◇ 自分や友だちが調べた内容を踏まえて行動につなげられるようにする。</p> <p>◇ 行動目標は実行可能な内容になるようにする。</p> <p>◇ ①時に実施したエコスタイルチェックを振り返らせる。</p> <p>◆【環境に働きかける実践力】自分の生活の中で、植物や森林を守るための取組を実践できる。</p>
				⑮		

4 単元の評価規準

- (1) 植物や森林のもたらす恩恵や植物や森林とともに生活していく大切さについて知るとともに、自分の生活がそれらに影響を及ぼす可能性のあることを率直に受け止めている。(エコスタイルチェック記入内容、話し合い活動における発言分析)
- (2) 植物や森林の様子や働き、植物や森林が直面する問題について、自ら課題を設定し、見通しある学習計画を立てて、よりよく問題解決の活動に取り組んでいる。(課題設定とその理由の分析、ワークシート記述内容、情報収集の方法と的確さ、事実に基づいた理解)
- (3) 植物や森林を守り育てる取組を実践している。(活動状況の分析)

2 「食べ物とわたしたちの暮らしについて考えよう」

1 単元の目標

- (1) 食べ物と生活との関わりについて調べる活動を通して、食べ物を取り巻く問題を身近なものとして捉えることができるようにする。
- (2) 身近な自然環境や社会環境から見いだした問題について、共生や思いやりの視点から解決に向けての具体的手だてをまとめ、自らの暮らし方を改善していく実践行動につなげることができるようにする。

2 評価の観点

評価の観点		内 容
環境についての感受性 共生や思いやりの心		<ul style="list-style-type: none"> ・ 食べ物を自分の生活と関連付けて捉え、食べ物を取り巻く問題を解決するための活動に興味・関心をもって関わることができる。 ・ 人の生活と食べ物とが深く関わり合っていることに気付き、共生の心をもって、自らの生活行動を見つめ直すことができる。
環境に対する 見方・考え方	環境に対する 思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食べ物を取り巻く問題を自分の生活の中から見付け出し、その解決方法を具体的に考えることができる。 ・ 身近な環境と東京都や日本、世界の環境との関わりに気付き、自分の生活と環境との関連について考えることができる。 ・ 食料生産や流通が環境に与える負荷について、インターネットや調査などをもとに図表等を用いてまとめ、筋道立てて自分の意見を発表できる。
	問題解決に必要な 技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食料生産や流通、消費の様子、それらが環境に与える負荷についてインターネットや調査などを活用して、自ら情報を収集・選択することができる。
	環境に対する 知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境負荷の少ない食糧確保のための身近な取組について知り、自分たちにもできることがあることについて理解する。 ・ 食べ物をめぐる様々な問題について、その原因や実態を理解できる。
環境に働きかける実践力		<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境負荷の少ない食糧確保のための身近な取組について知り、自分の生活の中で実践できる。

3 指導計画【全15時間程度】

時	主な学習活動	◇教師の支援 ◆主な評価
F E E L	○ エコスタイルチェックで自分の生活を見つめ直そう。	◇ 他者との競争でなく、自らの生活を素直に見つめさせる。
	○ 身近な食材の生産地を調べよう。 ・ 日本各地や世界に広がる食料生産 ・ 流通方法	◇ 新聞の折り込み広告等、身近な食品の生産地が分かる資料を提示する。 ◇ 視聴覚資料を活用し、食料不足に悩む国の暮らしや食べ物を取り巻く問題を実感的に捉えられるようにする。
	○ フードマイレージによる食べ物と環境負荷との関連	
	○ 食糧不足に悩む国の暮らしを知ろう。 ・ 食べ物の大切さや有り難み	◆【環境についての感受性】自分たちの食べ物が世界とつながっていることについて知り、自分の食生活が環境に影響を及ぼす可能性のあることを率直に受け止めることができる。
	○ 食べ物を取り巻く問題について知ろう。 ・ 食料生産と環境 ・ 気候の変化と食料生産との関連	◆【共生や思いやりの心】食べ物の大切さが分かる。

	時	主な学習活動	◇教師の支援 ◆主な評価		
T H I N K		○ 小麦と食べ物を取り巻く環境について調べよう。 ・ 世界に広がる生産地 ・ 自給率 ・ 輸送方法や距離と環境負荷 ・ 国産小麦の現状 ・ パン工場の様子 ・ 小麦を使った世界の食事 ・ スローフード ・ 小麦を使った伝統食 ・ 旬の食材 ・ 地産地消の考え方 調べたことをレポートや新聞、プレゼンテーションソフトなどを使って発表する。	◇ 日本の食生活の実態を自らの生活と関連させて捉えさせる。 ◇ 自分なりの思いや願いを明らかにさせる。 ◇ 活動計画を立てさせる。 ◇ 情報収集、実験や観察の方法について例示する。 ◇ 関係機関との連携を図る。 ◇ 家庭科学習や栽培活動との関連を図る。		
	④		◆【環境に対する見方・考え方】 〈思考・判断・表現〉 ・ 理由を明確にして学習課題を見付けることができる。 ・ 自分の生活と環境に与える影響とを関連付けて考えることができる。 ・ 得られた情報を図や表などに加工し、自らの考えを表現できる。 〈技能〉 ・ 目的を明確にして、課題解決に必要な情報を得ることができる。 〈知識・理解〉 ・ 環境に配慮した食生活の実現に向けて自分にもできる取組があることを知る。 ・ 食べ物を取り巻く問題の実態と原因を理解する。		
	⑤				
	⑥				
	⑦				
	⑧				
	⑨				
	⑩				
	⑪				
	⑫	○ エコクッキングにチャレンジしよう。 ・ 食べ物を育てよう			
	⑬	・ 生産地に留意した食材の選択 ・ 節水や省エネルギーに留意した調理法 ・ ゴミの処理と後片付け			
	A C T I O N	⑭		○ 学習を通して分かったことをこれからの生活に生かそう。 ・ 環境負荷の少ない食生活をしていくために自分で取り組めることを考え、行動として表す。	◇ 自分や友だちが調べた内容を踏まえて行動につなげられるようにする。 ◇ 行動目標は実行可能な内容になるようにする。 ◇ ①時に実施したエコスタイルチェックを振り返らせる。
		⑮			◆【環境に働きかける実践力】自分の生活の中で、食べ物を大切にするための取組を実践できる。

4 単元の評価規準

- (1) 食べ物の大切さや自分たちの食生活の実態について知るとともに、自分の食生活が環境に影響を及ぼす可能性のあることを率直に受け止めている。(エコスタイルチェック記入内容、話し合い活動における発言分析)
- (2) 食材の生産や流通、調理方法と食べ物を取り巻く問題について、自ら課題を設定し、見通しある学習計画を立てて、よりよく問題解決の活動に取り組んでいる。(課題設定とその理由の分析、ワークシート記述内容、情報収集の方法と的確さ、事実に基づいた理解)
- (3) 環境負荷の少ない食生活に向けての取組を実践している。(活動状況の分析)

3 「エネルギーとわたしたちの暮らしについて考えよう」

1 単元の目標

- (1) エネルギーと生活との関わりについて調べる活動を通して、エネルギー消費や地球温暖化に関わる問題を身近なものとして捉えることができるようにする。
- (2) 身近な自然環境や社会環境から見いだした問題について、共生や思いやりの視点から解決に向けての具体的手だてをまとめ、自らの暮らし方を改善していく実践行動につなげることができるようにする。

2 評価の観点

評価の観点		内 容
環境についての感受性 共生や思いやりの心		<ul style="list-style-type: none"> ・ エネルギー消費を自分の生活と関連付けて捉え、地球温暖化問題を解決するための活動に興味・関心をもって関わることができる。 ・ 人の生活とエネルギー消費とが深く関わり合っていることに気付き、共生の心をもって、自らの生活行動を見つめ直すことができる。
環境に対する 見方・ 考え方	環境に対する 思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地球温暖化にかかわる問題を自分の生活の中から見付け出し、その解決方法を具体的に考えることができる。 ・ 身近な環境と東京都や日本、世界の環境との関わりに気付き、自分の生活と環境との関連について考えることができる。 ・ エネルギー消費の様子や地球温暖化問題について、インターネットや調査などをもとに図表等を用いてまとめ、筋道立てて自分の意見を発表できる。
	問題解決に必要な 技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ エネルギー消費の様子や地球温暖化問題についてインターネットや調査などを活用して、自ら情報を収集・選択することができる。
	環境に対する 知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ 省エネルギーや地球温暖化防止の身近な取組について知り、自分たちにもできることがあることについて理解する。
環境に働きかける実践力		<ul style="list-style-type: none"> ・ 省エネルギーや地球温暖化防止の身近な取組について知り、自分の生活の中で実践できる。

3 指導計画【全15時間程度】

時	主な学習活動	◇教師の支援 ◆主な評価
F E E L	○ エコスタイルチェックで自分の生活を見つめ直そう。	◇ 他者との競争でなく、自らの生活を素直に見つめさせる。
	○ 電気について知ろう。 ・ 発電方法と化石燃料 ・ 電気と温室効果ガスの排出 ・ 自然エネルギーを利用した発電 ・ 家庭や学校での電力使用の様子	◇ 発電の仕組みや発電所の場所等が分かる資料を提示する。 ◇ 視聴覚資料を活用し、発電の仕組みや電力消費と環境負荷を実感的に捉えられるようにする。
	○ 電気と環境負荷について知ろう。 ・ ヒートアイランド現象 ・ 身近な節電方法	◆【環境についての感受性】自分たちの生活を支える電気が世界とつながっていることについて知り、自分の生活が環境に影響を及ぼす可能性のあることを率直に受け止めることができる。 ◆【共生や思いやりの心】省エネルギーに配慮した生活の大切さが分かる。

	時	主な学習活動	◇教師の支援 ◆主な評価		
T H I N K	④	○ 地域の温暖化防止対策について調べよう。 ・ 地域温暖化マップ作り ・ 温度の高い地点、低い地点の周りの様子の特徴について ・ 東京電力、東京ガス等による出前授業の活用 ・ 地域のエネルギーの使われ方 ・ 緑のカーテンについて ・ 打ち水作戦について ・ 地域に暮らす人々の思いや願い ⑦ 周りの人へのインタビュー、調査、実験などの結果をまとめに取り入れる。 ⑧ 調べたことをレポートや新聞、プレゼンテーションソフトなどを使って発表する。 ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬	◇ 地域の温暖化の実態を自らの生活と関連させて捉えさせる。 ◇ 自分なりの思いや願いを明らかにさせる。 ◇ 地域の人々の思いや願いに目を向けさせる。 ◇ 活動計画を立てさせる。 ◇ 情報収集、実験や観察の方法について例示する。 ◇ 関係機関との連携を図る。 ◆【環境に対する見方・考え方】 〈思考・判断〉 ・ 理由を明確にして学習課題を見付けることができる。 ・ 自分の生活と環境に与える影響とを関連付けて考えることができる。 〈技能・表現〉 ・ 目的を明確にして、課題解決に必要な情報を得ることができる。 ・ 得られた情報を図や表などに加工し、自らの考えを表現できる。 〈知識・理解〉 ・ 省エネルギーや地球温暖化防止の取組について自分にもできることがあることを知る。		
	⑭			○ 学習を通して分かったことをこれからの生活に生かそう。 ・ 省エネルギーや地球温暖化防止の取組の中で自分にできることを考え、行動として表す。	◇ 自分や友だちが調べた内容を踏まえて行動につなげられるようにする。 ◇ 行動目標は実行可能な内容になるようにする。 ◇ ①時に実施したエコスタイルチェックを振り返らせる。 ◆【環境に働きかける実践力】自分の生活の中で、省エネルギーや3Rの取組を実践できる。
	⑮				

4 単元の評価規準

- (1) 発電や電力消費の実態について知るとともに、自分の生活が環境に影響を及ぼす可能性のあることを率直に受け止めている。(エコスタイルチェック記入内容、話し合い活動における発言分析)
- (2) エネルギー消費や地球温暖化問題について、自ら課題を設定し、見通しある学習計画を立てて、よりよく問題解決の活動に取り組んでいる。(課題設定とその理由の分析、ワークシート記述内容、情報収集の方法と的確さ、事実に基づいた理解)
- (3) 省エネルギーや地球温暖化防止に向けての取組を実践している。(活動状況の分析)

4 「地域の産業とわたしたちの暮らしについて考えよう」

1 単元の目標

- (1) 地域の産業と生活との関わりについて調べる活動を通して、産業を取り巻く問題を身近なものとして捉えることができるようにする。
- (2) 身近な自然環境や社会環境から見いだした問題について、共生や思いやりの視点から解決に向けての具体的手だてをまとめ、自らの暮らし方を改善していく実践行動につなげることができるようにする。

2 評価の観点

評価の観点		内 容
環境についての感受性 共生や思いやりの心		<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域産業を自分の生活と関連付けて捉え、産業にかかわる問題を解決するための活動に興味・関心をもって関わるができる。 ・ 人の生活と産業とが深く関わり合っていることに気付き、共生の心をもって、自らの生活行動を見つめ直すことができる。
環境に対する 見方・ 考え方	環境に対する 思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・ 産業にかかわる問題を自分の生活の中から見付け出し、その解決方法を具体的に考えることができる。 ・ 身近な環境と東京都や日本、世界の環境との関わりに気付き、自分の生活と環境との関連について考えることができる。 ・ 産業の様子や環境に与える負荷について、インターネットや調査などを基に図表等を用いてまとめ、筋道立てて自分の意見を発表できる。
	問題解決に必要な 技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 産業の様子や環境に与える負荷についてインターネットや調査などを活用して、自ら情報を収集・選択することができる。
	環境に対する 知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ 省エネルギーや3Rの身近な取組について知り、自分たちにもできることがあることについて理解する。
環境に働きかける実践力		<ul style="list-style-type: none"> ・ 省エネルギーや3Rの身近な取組について知り、自分の生活の中で実践できる。

3 指導計画【全15時間程度】

時	主な学習活動	◇教師の支援 ◆主な評価
F E E L ① ② ③	<ul style="list-style-type: none"> ○ エコスタイルチェックで自分の生活を見つめ直そう。 ○ 地球年表を作ろう <ul style="list-style-type: none"> ・ 地球の歴史と環境との関わり ・ 人類の活動と環境との関わり ・ 未来についての予測 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 他者との競争でなく、自らの生活を素直に見つめさせる。 ◇ 46億年に及ぶ地球の歴史のほんのわずかな期間における人類の活動が環境に大きな変化をもたらしたことを視覚的に捉えさせる。 ◇ 地球年表については詳細なものになりすぎないように配慮する。 <p>◆【環境についての感受性】自分たちの生活を地球の長い歴史の中で見つめ、自分の生活が環境に影響を及ぼす可能性のあることを率直に受け止めることができる。</p> <p>◆【共生や思いやりの心】省エネルギーに配慮した生活の大切さが分かる。</p>

	時	主な学習活動	◇教師の支援 ◆主な評価			
T H I N K	④	○ 地域の産業と環境との関わりについて調べよう。 ・ 地域産業マップ作り ・ 産業を支えるエネルギー ・ エコマーク商品について ・ 地域産業が行っている環境への配慮 ・ 公害(大気・騒音・水質汚濁等) ・ 地域産業を支える人々の思いや願い ・ 地域の過去と現在の様子の比較 周りの人へのインタビュー、調査、実験などの結果をまとめて取り入れる。 調べたことをレポートや新聞、プレゼンテーションソフトなどを使って発表する。	◇ 地域産業の実態を自らの生活と関連させて捉えさせる。 ◇ 自分なりの思いや願いを明らかにさせる。 ◇ 働く人々の思いや願いに目を向けさせる。 ◇ 活動計画を立てさせる。 ◇ 情報収集、実験や観察の方法について例示する。 ◇ 関係機関との連携を図る。 ◆【環境に対する見方・考え方】 〈思考・判断〉 ・ 理由を明確にして学習課題を見付けることができる。 ・ 自分の生活と環境に与える影響とを関連付けて考えることができる。 〈技能・表現〉 ・ 目的を明確にして、課題解決に必要な情報を得ることができる。 ・ 得られた情報を図や表などに加工し、自らの考えを表現できる。 〈知識・理解〉 ・ 省エネルギーや3Rの取組について自分にもできることがあることを知る。			
	⑤					
	⑥					
	⑦					
	⑧					
	⑨					
	⑩					
	⑪					
	⑫					
	⑬					
	A C T I O N			⑭	○ 学習を通して分かったことをこれからの生活に生かそう。 ・ 省エネルギーや3Rの取組の中で自分にできることを考え、行動として表す。	◇ 自分や友だちが調べた内容を踏まえて行動につなげられるようにする。 ◇ 行動目標は実行可能な内容になるようにする。 ◇ ①時に実施したエコスタイルチェックを振り返らせる。 ◆【環境に働きかける実践力】自分の生活の中で、省エネルギーや3Rの取組を実践できる。
				⑮		

4 単元の評価規準

- (1) 発電や電力消費の実態について知るとともに、自分の生活が環境に影響を及ぼす可能性のあることを率直に受け止めている。(エコスタイルチェック記入内容、話し合い活動における発言分析)
- (2) 地域産業や産業を取り巻く問題について、自ら課題を設定し、見通しある学習計画を立てて、よりよく問題解決の活動に取り組んでいる。(課題設定とその理由の分析、ワークシート記述内容、情報収集の方法と的確さ、事実に基づいた理解)
- (3) 環境負荷の少ない生活に向けての取組を実践している。(活動状況の分析)

5 「日本の国立公園や世界遺産について調べよう」

1 単元の目標

- (1) 日本の国立公園や世界遺産について調べる活動を通して、日本の豊かな自然や歴史を身近なものとして捉えることができるようにする。
- (2) 身近な自然環境や社会環境から見いだした問題について、共生や思いやりの視点から解決に向けての具体的手だてをまとめ、自らの暮らし方を改善していく実践行動につなげることができるようにする。

2 評価の観点

評価の観点		内 容
環境についての感受性 共生や思いやりの心		<ul style="list-style-type: none"> 日本の国立公園や世界遺産の実態を知り、貴重な自然や文化遺産を守り育てていくための活動に興味・関心をもって関わるができる。 人の生活と地域の環境とが深く関わっていることに気付き、共生の心をもって、自らの生活行動を見つめ直すことができる。
環境に対する見方・考え方	環境に対する思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 日本の国立公園や世界遺産を取り巻く問題を見付け出し、その解決方法を具体的に考えることができる。 身近な環境と東京都や日本、世界の環境との関わりに気付き、自分の生活と環境との関連について考えることができる。 日本の国立公園や世界遺産について、インターネットや調査などを基に図表等を用いてまとめ、筋道立てて自分の意見を発表できる。
	問題解決に必要な技能	<ul style="list-style-type: none"> 日本の国立公園や世界遺産についてインターネットや調査などを活用して、自ら情報を収集・選択することができる。
	環境に対する知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> 貴重な自然や文化遺産を守り育てていくための取組を知り、自分たちにもできることがあることについて理解する。 自然や文化遺産に関わる様々な問題について、その原因や実態を理解できる。
環境に働きかける実践力		<ul style="list-style-type: none"> 貴重な自然や文化遺産を守り育てていくための取組を知り、自分の生活の中で実践できる。

3 指導計画【全15時間程度】

時	主な学習活動	◇教師の支援 ◆主な評価
F E E L	○ エコスタイルチェックで自分の生活を見つめ直そう。	◇ 他者との競争でなく、自らの生活を素直に見つめさせる。
	○ 世界の素晴らしい自然や文化遺産について知ろう。 ・ 知っていることについて話し合う。	◇ 視聴覚資料を活用し、世界の自然や文化遺産、ユネスコの活動を実感的に捉えられるようにする。
	○ ユネスコの活動について調べよう。 ・ 世界の自然遺産や文化遺産保護のための取組 ・ 世界遺産の認定基準	<p>◆【環境についての感受性】世界の自然や文化遺産のすばらしさを率直に受け止めることができる。</p> <p>◆【共生や思いやりの心】自然や文化遺産を守り育てていく取組の大切さが分かる。</p>

	時	主な学習活動	◇教師の支援 ◆主な評価			
T H I N K	④	○ 日本の国立公園や世界遺産について調べよう。 ・ 場所 ・ 国立公園や世界遺産となった理由 ・ 自然の様子や歴史的背景 ・ 国立公園や世界遺産を守る取組 ・ 国立公園や世界遺産に関わる人々の思いや願い 調べたことをレポートや新聞、プレゼンテーションソフトなどを使って発表する。 ○ 地域遺産を認定しよう。 ・ 地域に残る貴重な自然や文化遺産の調査 周りの人へのインタビュー、調査の結果をまとめに取り入れる。 調べたことをレポートや新聞、プレゼンテーションソフトなどを使って発表する。	◇ 日本の国立公園や世界遺産の実態を環境と関連させてとらえさせる。 ◇ 自分なりの思いや願いを明らかにさせる。 ◇ 活動計画を立てさせる。 ◇ 情報収集、実験や観察の方法について例示する。 ◇ 関係機関との連携を図る。 ◇ 野外活動における安全への配慮 ◆【環境に対する見方・考え方】 〈思考・判断・表現〉 ・ 理由を明確にして学習課題を見付けることができる。 ・ 自分の生活と環境に与える影響とを関連付けて考えることができる。 ・ 得られた情報を図や表などに加工し、自らの考えを表現できる。 〈技能〉 ・ 目的を明確にして、課題解決に必要な情報を得ることができる。 〈知識・理解〉 ・ 国立公園や世界遺産を守るために自分にもできる取組があることを知る。 ・ 国立公園や世界遺産を守る取組を取り巻く問題の実態と原因を理解する。			
	⑤					
	⑥					
	⑦					
	⑧					
	⑨					
	⑩					
	⑪					
	⑫					
	⑬					
	A C T I O N			⑭	○ 学習を通して分かったことをこれからの生活に生かそう。 ・ 国立公園や世界遺産を守るために自分にもできる取組を考え、行動として表す。	◇ 自分や友だちが調べた内容を踏まえて行動につなげられるようにする。 ◇ 行動目標は実行可能な内容になるようにする。 ◇ ①時に実施したエコスタイルチェックを振り返らせる。 ◆【環境に働きかける実践力】自分の生活の中で国立公園や世界遺産を守るための取組を実践できる。
				⑮		

4 単元の評価規準

- (1) 世界の自然や文化遺産のすばらしさを率直に受け止めるとともに、それを守り育てていく活動の大切さを理解している。(エコスタイルチェック記入内容、話し合い活動における発言分析)
- (2) 日本の国立公園や世界遺産、地域の貴重な自然や文化について、自ら課題を設定し、見通しある学習計画を立てて、よりよく問題解決の活動に取り組んでいる。(課題設定とその理由の分析、ワークシート記述内容、情報収集の方法と的確さ、事実に基づいた理解)
- (3) 自然環境や社会環境を守り育てる取組を実践している。(活動状況の分析)

6 「私の学校のエコ宣言」

1 単元の目標

- (1) 学校が与える環境負荷と自分たちの学校生活との関わりについて調べる活動を通して、環境問題を身近なものとして捉えることができるようにする。
- (2) 身近な自然環境や社会環境から見いだした問題について、共生や思いやりの視点から解決に向けての具体的手だてをまとめ、自らの暮らし方を改善していく実践行動につなげることができるようにする。

2 評価の観点

評価の観点		内 容
環境についての感受性 共生や思いやりの心		<ul style="list-style-type: none"> 学校が与える環境負荷を自分の学校生活と関連付けて捉え、環境負荷を軽減するための活動に興味・関心をもって関わることができる。 学校生活と環境とが深く関わり合っていることに気づき、共生の心をもって、自らの生活行動を見つめ直すことができる。
環境 対 す る 見 方 ・ 考 え 方	環境に対する 思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 環境にかかわる問題を自分の学校生活の中から見付け出し、その解決方法を具体的に考えることができる。 身近な環境と東京都や日本の環境との関わりに気づき、自分の生活と環境との関連について考えることができる。 学校が与える環境負荷について、観察や調査などをもとに図表等を用いてまとめ、筋道立てて自分の意見を発表できる。
	問題解決に必要な 技能	<ul style="list-style-type: none"> 学校が与える環境負荷について、観察や調査などを活用して、自ら情報を収集・選択することができる。
	環境に対する 知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> 省エネルギーや3R、節水などの身近な取組について知り、自分たちにもできることがあることについて理解する。
環境に働きかける実践力		<ul style="list-style-type: none"> 省エネルギーや3Rの身近な取組について知り、自分の生活の中で実践できる。

3 指導計画【全15時間程度】

時	主な学習活動	◇教師の支援 ◆主な評価
F E E L	○ エコスタイルチェックで自分の生活を見つめ直そう。	◇ 他者との競争でなく、自らの生活を素直に見つめさせる。
	○ 学校の環境家計簿を付けよう。 ・ 複数の項目について、使用量や排出量を調査し、それを二酸化炭素排出量に置き換える。	◇ 使用量や排出量を二酸化炭素排出量に換算する資料を提示する。 ◇ 環境家計簿は複数回作成し、比較検討する中から課題を見いだせるようにする。
	③ ・ 環境家計簿の作成は、1週間単位または1ヶ月単位で複数回実施。 ・ 環境家計簿から分かることを話し合う。	◆【環境についての感受性】自分たちの学校生活が環境に影響を及ぼす可能性のあることを率直に受け止めることができる。 ◆【共生や思いやりの心】省エネルギーや3Rに配慮した生活の大切さが分かる。

	時	主な学習活動	◇教師の支援 ◆主な評価			
T H I N K	④	<ul style="list-style-type: none"> ○ Kids ISOに取り組もう。 ・ 学校が環境に及ぼしている影響を調べる。(校庭の樹木、給食の残滓、水道使用、ゴミの量、電力消費等) ・ 学校環境をよくするための具体的な目標を立てる。(落ち葉を集めて腐葉土づくり、給食残滓0の取組、節電・節水の実行等) ・ 目標を宣言するポスター等を作成して校内に周知。 ・ 実践活動 ・ 活動記録 ・ 目標や活動修正のための話し合い ・ 達成度の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 地域環境への影響については、よい点、悪い点の両面に目を向けさせる。 ◇ 具体的な目標については、数値目標として挙げられるようにする。 ◇ 協働的な取組となるよう、子どもたちの共通理解、組織作りを図る。 ◇ 自分なりの思いや願いを明らかにさせる。 ◇ 活動計画を立てさせる。 ◇ 他校の取組等との情報交換の機会を与える。 ◇ 短・中期的な活動評価を実施し、目標や活動についての修正が図れるようにする。 ◇ 関係機関との連携を図る。 <p>◆【環境に対する見方・考え方】</p> <p>〈思考・判断・表現〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 理由を明確にして学習課題を見付けることができる。 ・ 自分の生活と環境に与える影響とを関連付けて考えることができる。 ・ 得られた情報を図や表などに加工し、自らの考えを表現できる。 <p>〈技能〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目的を明確にして、課題解決に必要な情報を得ることができる。 <p>〈知識・理解〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 省エネルギーや3R、節水などの身近な取組について自分たちにもできることがあることを知る。 			
	⑤					
	⑥					
	⑦					
	⑧					
	⑨					
	⑩					
	⑪					
	⑫					
	⑬					
	A C T I O N			⑭	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習を通して分かったことを次年度の学校版ISOに引き継ごう。 ・ 活動を焦点化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 今年度の成果や課題を明らかにして、行動につなげられるようにする。 ◇ 行動目標は実行可能な内容になるようにする。 ◇ ①時に実施したエコスタイルチェックを振り返らせる。 <p>◆【環境に働きかける実践力】自分の生活の中で、省エネルギーや3Rの取組を実践できる。</p>
				⑮		

4 単元の評価規準

- (1) 自分たちの学校生活が環境に影響を及ぼす可能性のあることを率直に受け止め、省エネルギーや3Rに配慮した生活の大切さを理解している。(エコスタイルチェック記入内容、話し合い活動における発言分析)
- (2) 環境負荷を軽減する学校生活について、自ら課題を設定し、見通しある学習計画を立てて、よりよく問題解決の活動に取り組んでいる。(課題設定とその理由の分析、ワークシート記述内容、情報収集の方法と的確さ、事実に基づいた理解)
- (3) 環境負荷の少ない生活に向けての取組を実践している。(活動状況の分析)